

あけましておめでとうございます。本年よろしくお申し上げます。

98年度松本杯が12月の定例会で発表されました。年間ベストディベーター賞に加藤宏さん、新人賞に塩島みゆきさんが、めでたく受賞なさいました。(^^)パチパチパチ。広報部ではさっそくお二人に感想をお伺いしました。以下に掲載いたします。(質問事項は、1. 受賞の感想を一言、2. JBDF入会以前のディベート歴、3. JBDF入会のきっかけ、4. 一年で最も印象に残った試合、5. ディベートをするときに心がけていること、6. 今年の抱負(ディベート以外でも可)となっています。)

ベストディベーター賞を受賞して

加藤 宏

★1. 月並みですが、嬉しい、の一言に尽きます。松本杯は、おそらく日本のディベート関係のカップで、もっとも獲得するのが難しいものの一つだと思います。その意味で、98年は、best year of my lifeかな? 私も四十台半ばを迎え、これから、気力、知力、体力、容色(?)のいずれも、衰える一方ですから、去年カップをいただけて、ラッキーでした(バスに間にあった、とでもいいでしょうか。)。★2. ディベートは、大学の1~2年生の時に、英語学校で教えてもらいました。その時、たまたま「経験のため」出場した朝日新聞主催の大学対抗ディベート大会(当時は朝日新聞も、ディベート大会を主催していた。)に、番狂わせで優勝し(ビギナーズ・ラックというやつですな。)、次いでその翌年も何故か、優勝できてしまった、というラッキーな事件がありました。

ただし、この2回の優勝はもっぱらパートナーであった田中明彦氏(現東大教授【国際関係論】)の力によるものであります。私は、いつも、第二パイオリンを弾いております。



★3. 3~4年ほど前に、英語の雑誌に出ていた紹介記事を読んで、JBDFの存在を知り、加藤亨さんにお電話して、いれてもらいました。当時、自分でも、社会人としてディベートを再開したいと思っていて、仲間がほしいと思っていたので.....。

★4. 春のJDAの日本語ディベート大会の決勝戦が、私にとって忘れることのできない試合です。この試合で、私は相手から、全く予想してもいない議論を持ち出され、まさに、「壇上に立った段階で、何を喋ってよいやら分からナイ」という状況に立ち至りました(今思い出しても汗が出ます。)。教訓として、初めて耳にする議論に対しても柔軟に対応できるように、その場で議論を構築する能力が

ないとダメだな、と、痛感しました。つまり、頭が柔らかくないとイカン! ということですね。それはつまり、いろんな議論を予め考えておく、ということに尽きるのでしょうか.....。テニス・プレーヤーがどんなボールでも打てるように、日常から練習しておくのと同じように。

JBDFの例会でのディベートでは、やはり11月の試合(所得税の累進課税緩和)が、印象に残っています。「所得の再分配はどの程度、なされるべきなのか」など、面白い論点を内包したディベートであったと思います。実際には、あまり面白いかたちで議論を展開はできませんでしたが。

★5. ○せっかくやる以上、与えられたトピックについて、まとまった知識をゲットするよう、心がける。本代をケチらない。

○現実に社会で通用する議論をする。「ディベートだから」、「聞いているのはどうせ数人なんだから」などという甘えを持たず、「国会での議論に耐える」というレベルの議論を目指すように(少なくとも心構えとしては)自らに課す。特に、「相手はこの論点について、反論を準備しているはずはないから、何を言っても大丈夫」などと思わない。このような道に踏み込むと、ディベートは、教育的であるどころか、恐ろしく類焼的な行為に墮してしまうと思います。

○善悪の判断について、倫理的な基準(立場)を明確にする。できれば、「人を殺すのは何故悪いのか」というところまで踏み込んで考える。「立場」と「立場」がぶつかりあい、その優劣を争う、というディベートが、議論の深まりを可能とする、望ましいディベートのあり方であると感じています(小さな「メリット」をなんでもいから積み上げて、足し算で勝つ、というのではなく.....)。

ちなみに、最近知るに至ったのですが、倫理学という学問は、日常的なことがらを含めて、ものごとの善悪・是非を判断するために、とても役立つ学問のようですね。私は、加藤尚武氏(倫理学)とか、竹内靖氏(経済倫理学)などの著作を斜め読みしただけですが、ずいぶん目を開かれました。

★6. 「生涯現役ディベーター!」を目指して、また、いろいろなチャンスを見つけてやりたいと思っています。また、ディベートを通じて、いろんな方と友達になりたいと思います。私個人の能力アップという面では、「聞く能力」と「メモする能力」をなんとか改善したいですね。

松本杯新人賞を受賞して

塩島 みゆき

★1. このたび新人賞をいただき、ディベートのパートナーとして私を導いてくれた方々への感謝と運の良さを感じています。また、ディベートが上手、下手とか、優勝数が人より多いからと言う理由で決まるわけではない新人賞は、J B D Fに入会したての方々にとって大変なインセンティブとなるので、ぜひこの賞を続けてほしいと思います。私は今までいろいろな方々と組み、ディベートの仕方から時事問題にいたるまで幅広い事を教えていただきました。

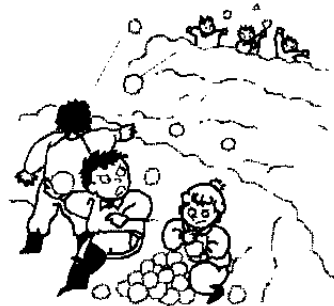
★2. J B D Fに入会する以前はたいしたディベート歴もなく、ディベート関連の書籍（松本道弘氏や海外のディベート入門書）を読み、あるスクールにてディベートの短期講座をとっていたぐらいでした。ディベートを教えていただいた先生はアメリカ人で、日本人にディベートを教える事は初めてだとおっしゃっていましたが、当時は英語でディベートの授業を受けられて幸せだと思っていました。その講座を継続したいとも思っていたのですが、仕事や私事で時間が取れず断念しました。

★3. その後9ヶ月ぐらいたったでしょうか、やはりディベートを続けたくて、けれども特にディベート仲間がいるわけではないので1人で本でも読もうかなと思ったのがJ B D Fを知るきっかけとなりました。そうです、私は松本茂先生の「頭を鍛えるディベート入門」を手にとったのです。それは松本茂先生の名前を知っていたという事もあるし、（いまだにはじめに松本先生の名を知ったきっかけは思い出せない。）最寄り駅の本屋の棚に、その本が1冊だけあったからです。もし、あの時その本が存在していなかったら、わざわざ取り寄せていたかと思うと何か不思議です。

さっそく、1998年1月度のディベートを見学しました。私がスクールで勉強していたディベートと言うのは、テキストを読みながら、グループを作って少しずつディベートのやり方を覚えるような、まどろっこしいものでした。ですから、J B D Fのディベート、つまりディベーターが1ラウンド対戦をし、その後投票、評価までつく、こんなディベートを実際に見た結果、今までのディベートより面白そうだし、時事問題の知識もつくきっかけにもなると思い、すぐに参加を決意しました。また、英語を駆使して、英語の感覚で論理的に話してみたいと言う願望もありました。

★4. さて、去年のディベートで印象に残った試合はJ D A日本語ディベート大会でのJ I C A武井チームの試合と、デイリーヨミウリ英語ディベート大会での自身の苦しいディベート試合でした。武井チームの落ち着きや、鋭い切り返しは、見ていて非常に面白く、最後の高校生チームとの対戦は1ラウンド中ずっと飽きる事がありませんでした。ヨミウリ

での私のディベートは、肯定、否定両方とも用意するのがこんなに苦しい事とは思っても見なかったため、準備段階からしてつまづき、実践ではさんさんたる結果でした。ちなみにこの時の証拠資料は、大きな書店で買った一番大きいA4サイズの持ち運び用ファイルにも収まりきらない膨大な量で、いまだにどのようにファイルを作ればいいのかわかりません。どなたかコメントを…。(^_^;)（但しファイルが2つに増えるのは嫌。）



★5. ディベートで今まで心がけてきた事は自分の担当したパートを用意してきて、パートナーに迷惑がかからないようにする事でした。と言っても、去年1年間はその事が精一杯であったのが私の実感です。

★6. 今年は今までのディベートで学んだ事をもう一回復習し、次のディベートにいかせたらいいと思っています。また、今後ともいろいろな方々と組んで新たな個性との出会いがあったらいいなと望んでいます。それはディベート上のパートナーと言うのは、会社や学校、または個人での付き合いとはまた違った側面があり、刺激的であるからなのです。日本において、社会問題について真剣に議論したり、評価したりできる場はそう多くありません。

加藤さん、塩島さん、ありがとうございました。今年は全員が我こそはベストディベーター、という意気込みで活動していきましょう。

ところで、ノストラダムスの予言って当たるんでしょうか。有益な証拠資料をお持ちの方は広報部までお申し出ください(^_^)。

■第5回 JDA 春期ディベート大会申し込み受付中

開催日時：1999年3月27日（土）午前9時集合
開催場所：神田外語大学（JR京葉線「海浜幕張」駅北口より徒歩15分、または総武線「幕張」駅南口より徒歩20分）

詳細はJ D Aホームページ <http://www.kt.rim.or.jp/jda>

■2月例会

日時：2月19日（金）19:00～

内容：日本語ディベート 場所：新橋福祉会館

■J B D Fのホームページ

URLは <http://www.geocities.co.jp/WallStreet/3902>

訂正：98年冬号に記載の11月度の試合結果は正しくは「17対0肯定側の勝ち」です。ごめんなさい。